

2024年度 第2回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 2025年2月25日（火）13時30分から14時30分
- 開催場所 三次市防災センター1階会議室
- 出席者委員 植田千佳穂・石田睦子・池上裕章・添田龍彦・前田茂・藤井皇治郎・竹本勇夫・垣添博子（敬称略）
- 説明員 株式会社三次ケーブルビジョン
林代表取締役社長・坪井取締役・猶崎制作グループリーダー
田丸企画制作グループリーダー・伊達制作グループ員
- 1 開 会 出席者が揃ったため、事務局が開会を宣言する。
- 2 社長挨拶 お忙しい中、番組審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日は「みよしの企業」というコーナーについてご審議いただきたい。多数のご意見を賜りますようお願いする。
- 3 社側自己紹介 役員・社員が自己紹介を行った。
- 4 事務局 本日の出席状況について報告。本日は放送番組審議会委員12名中8名の出席を頂いており、放送番組審議会規則第6条2項により有効に成立していることを報告する。また、翌日のニュース番組「情報ストリートあっちこっち三次」で放送し、審議会の議事録をHPに掲載することを伝える。
- 5 審 議 審議に入る。皆様のご協力を頂きながら円滑な進行に努めてまいりたいと述べ、審議内容となる「みよしの企業～株式会社邦友～」について事務局からの説明を求める。
- 会長（司会）
- 番組担当者 番組ディレクターが2024年10月25日に放送した「みよしの企業～株式会社邦友～」について、配布資料に基づき企画意図や番組概要、演出などの説明を行う。（事前に委員へDVDを送付）

- 会長(司会) 視聴いただいた番組の内容について、忌憚のない意見を願います。
- 委員 番組のテーマや内容は非常に分かりやすく、会社の設立や事業概要も明確に伝わった。特に、事業ごとの特色や、中国エリアの配送についての映像が効果的だった。一方で、若い世代向けの情報発信として、働く現場の具体的な様子や従業員の生の声がさらにあれば、より一層魅力的になったのではないかと思う。「運送の品質」という言葉について、「品質」とはどういうことか話がなかったので、少し違和感を感じた。
- 委員 若い人だけでなく、Iターンされる方の選択肢になればと思う。人材の確保・育成について、中小企業は同じ思いで苦勞されていると思う。メーカーの物流拠点がないとあり、三次の問題として指摘されている点が良かった。
- 委員 社員のインタビューを通して、働きやすい環境を整えてくれる会社という印象を受けた。三次に物流拠点を作りたいという意見に対して、会社の強み・魅力など自信があるからこそ、そういったビジョンが持てると感じた。単なる企業紹介だけでなく、大手に負けぬ企業が三次にあることをアピールできる番組だと思う。
- 委員 企業のメインになる考え方をもっと押し出してもらえればと思う。将来の構想、信念などの思いが社員に対して周知できているか、会社のモットーを社員に伝えることが大事だと思う。
- 委員 製品の丁寧な配送、女性の雇用、会社の内容、社長の抱負などが詳しくあり良かった。仕事の割り振りなど自信に満ちたやり方をされて良かった。仕事の内容が丁寧に伝わった。幅広い年齢層の従業員が生き生きと働ける目標や楽しみがあればいいと思った。
- 委員 人口減少や自動化が進む中、先行投資など会社の次の戦略などの情報を知ることができたのはいい機会で、会社の中に入らないと分からないことなので、こういった放送ができたのは良かった。小中学校の給食の配送もどこがやっているのか分からなかったが、邦友さんがやっていることも知ることができた。社員がどのような形で働き

やすいのか、つつこんだ取材があった方が良かった。中国5県の物流拠点になっていないという話を聞いて、まだそういう状態なのだと感じた。

副 会 長 会社名をまったく知らなかった中で、給食や野菜の配送など分かりやすい内容だった。インタビューも女性、入社1年目、キャリアのある方などがあり良かった。会社の取り組みや姿勢がしっかり取材できていた。インタビューの中で従業員の夢などがあれば良かったと思う。従業員の声を聞くことが、中高生のこれからの就職の参考になると思う。

会 長 運送業の人材不足が注目されている中、その部分が何もなかったのが気になった。衛生製品や学校給食、野菜の3つを紹介したが、紹介の順番や画面のレイアウトが分かりにくかった。会社の取り組みはよく分かったが、中高生がどれだけ理解できるのかと感じた。経営者と従業員の思いをどれだけ聞き出すことができるのか、これからの課題だと思う。

社 側 (委員からの意見に対して)
画面のレイアウトについては、編集時でのミスであった。若手へのインタビューについて、将来のビジョンを聞かないといけなと感じ、今後はそこを意識していきたい。また、中高生目線が少し足らなかったもので、若い人のビジョンを伝えられる番組にしていきたい。「運送の品質」について、「品質」とは何かといった質問をするなど、視聴者に寄り添った取材をしていく。

社 長 もっと掘り下げる部分は、掘り下げるべきだった。Iターン・Uターンする人たちに地元に戻ってもらって、三次へ就職を促すことがメインになると思う。企業の魅力を番組を通じて出していかないと、三次に住もうとか、三次に就職しようとか、そういう一助になればということで番組がスタートしたので、業種に関係なく、どういった点が大切なのかみなさんの意見を伺いながら、続けていく必要があるのではと感じる。

委員 物流業界の2024年問題の中、閉じていく会社や、がんばっている会社がある中で、なぜ邦友を選んだのか。

社長 邦友の社長がロータリークラブと一緒に話をする中で、どうすれば生き残ることができるのかに視点を当てて、周りの企業と連携することによって物流の拠点づくりをするという社長の思いを伝えたかった。

委員 有言実行している社長の思いが表現されていたが、将来の展望をより深掘りしていれば、番組の中身が深まっていったと思う。

副会長 知らないことばかりで放送されて良かったと思う。2024年問題の中で事業が続いていることから「学ぶ」という点で刺激的な番組だったと感じた。

社側 邦友を取り上げた理由について、「学校給食の配送」が大きな理由で、視聴者に身近な給食が邦友の社員が運んでいることを伝えなければと思った。普段見ることができないことを我々が変わって取材・放送することで、こういった企業があるということに誇りを持ってもらいたい。市内にはまだたくさんの企業があるので、みなさんの方からも企業を紹介してもらいたい。

委員 「働きやすい環境を整えてくれる会社」とあり、会社と社員がいい関係にあると感じた。企業紹介の番組なので、社員の本音を聞くことは難しい？

社側 本音の部分を聞くことは少し難しい。

委員 物流システムについてあまり知らず、今回の番組を見て物流の動きを知ることができた。今後の旧郡部の給食がどう配送されるのか分からなかったため、配送を取り上げてもらって良かった。

- 委員 再放送はあるのか。
- 社側 これまで放送したものを年末年始にまとめて放送した。
- 委員 Iターン・Uターンをターゲットにしているということで、市外の方が見る手段はあるのか？
- 社側 市外の方が見る手段はないが、お盆や正月にまとめて再放送することで、帰省された方に見てもらうことは可能。
- 会長（司会） 皆様の意見が出揃ったようですので、事務局へお返します。
- 8 閉 会 事務局より審議会の議事録を HP に掲載し、翌日のニュース番組「情報ストリートあっちこっち三次」で放送することを伝え、来年度の番組審議会は 10 月開催予定の旨を案内し閉会した。

以上